

日本語非母語話者の自然談話による 言語コミュニケーションの方法の一考察

田中香織

はじめに

昨今、談話に関する研究は、言語学はもとより、社会言語学、コミュニケーション学、日本語教育に関する研究など、様々な研究分野からのアプローチが試みられてきている。このように、様々な分野にまたがり研究されている談話であるが、言語、非言語を含む会話分析に比べ、ある程度まとまりのあるとされる談話を扱った研究は少なく、これから進んでいく分野であると考ええる。

異文化コミュニケーションを考える上で、言語コミュニケーションは人間固有の代表的コミュニケーション手段として必要不可欠と考えられる。対人コミュニケーションをおこなう上での道具、手段と考えられる言語の重要性とは、単に言語の機能と意味によるものではなく、メッセージの送り手が如何に自分の意思、感情を聞き手に伝えられるかということではないか。しかしながら、コミュニケーションの手段とされる言語が非母語である場合、その談話展開パターンにどのような特徴が現われるのかという問題を分析している研究は少ない。

非母語話者の談話展開パターンを明らかにすることは、母語話者の談話展開パターンとの類似点及び相違点を明確にするのに役立つ

つ。類似点及び相違点を明確にすることによって、非母語話者、母語話者は、それぞれの談話展開パターン、互いの談話スタイルというものを理解し、言語コミュニケーションがスムーズに行えるよう、心がけるようになるのではないか。そしてそれらは、異文化コミュニケーションを行う際に生じる誤解の回避に役立つと考えられる。従って、非母語話者の談話を分析し、その特徴を明らかにするということは、より効果的な異文化コミュニケーションを考える上で非常に興味深いと言える。

一 先行研究の概念と問題点

一 一 先行研究の概念

談話展開の方法から言語コミュニケーションへアプローチしているものは数が少ない上に本研究とは内容に大きなズレがあると思われるため、本研究では国語学及び社会言語学の分野から、言語コミュニケーションに関係があると思われる以下の談話分析研究を参照することとする。

談話展開に関する先行研究として、東京方言の談話展開の方法を解明し、関西方言との対照によって談話展開の方法に地域性がある

ことを認めた久木田恵(1990)がある。

久木田は、関西の人間からみた東京方言は「ストレートに物を言う、きつい表現」と評され、逆に東京人からみた関西方言は「回りくどくて言いたいことがはっきりしない」と感じられるという問題を提示し、その原因として、談話の展開方法の違いに着目している。久木田が分析、考察した結果、東京方言と関西方言とではその談話展開パターンに明らかな違いがあることが認められた。久木田は、東京方言が「話し手が自己の主張を露にして聞き手を納得させる方向に展開する」という方法、すなわち「主観直情型(東京型)」であるのに対して、関西方言は「順接の接続詞によってひたすら状況を詳しく説明して聞かせる」という展開方法である「客観説明累加型(関西型)」であるとされた。そして、感情を露にしない関西人が、東京方言を「きつい」と感じたり、東京人が関西方言を「回りくどく」感じるの的を射た評価であるとした。

またこの他の談話展開に関する研究としては、畑中宏美(1994)、野崎希世江(1996)、園部美由紀(1997)、須崎由嘉(1999)などがある。

さらに、談話展開の方法を日本語教育に取り入れるための試みとして、晋萍(2002)がある。晋は、中国の大学における日本語教育の現状として、日本語の自然談話についての指導が行われていないため、大学卒業後、実際に日本語社会に入り、日本人の談話をよく聞き取れず、コミュニケーションがうまくできないという問題がよく起こるということを描いている。

その解決策として、談話教育の本格的導入を提案し、日本語自然談話を用いた日本語学習者用の実践的・分析的談話教材の作成を試

みている。

一 一 先行研究の問題点

談話展開の方法に関する研究は、国語学及び社会言語学の分野で積極的に研究されてきつつある。しかしながら、これら先行研究は、単に談話展開の方法を明らかにするにとどまっているものが多い。その点において、晋(2002)の研究は国語学から日本語教育へのアプローチとして興味深い。また、晋が問題意識として述べている、日本語既習者が実際の日本語社会に入った時に起こるコミュニケーションがうまくできないという問題は、日本語教育の分野のみ問題ではなく、コミュニケーション学の分野にも深く関係があると考ええる。

また、一連の先行研究の土台となっている久木田(1990)の研究においては、直接的にはコミュニケーションについて述べてはいないが、関西人が東京人に、東京人が関西人に感じる話し方の印象は、「きつい」とか「回りくどい」というもので、ネガティブな面が表出している。ここから、日本国内であっても、西と東という異なった文化的背景を持つ者同士がコミュニケーションを行う際には、誤解が生じる可能性があることを示唆している。

昨今、学際的研究の重要性が注目されつつある。そのような背景にあつて、言語学、国語学、社会言語学という言語研究に関する分野から、他分野へアプローチをしている研究も数多く見受けられるようになってきている。そのひとつとして、会話分析を挙げることができる。会話分析は、言語コミュニケーションへのアプローチを積極的に行っている。その例として、デボラ・タネンの「わかりあ

えない理由』を挙げる事ができる。デボラは男女間の会話を異文化コミュニケーションとし、誤解の生じる原因と、その解決策を提示している。それに比べ、談話分析、特にその展開方法からの他分野へのアプローチは、まだ少ないように思われる。

従って、今後の課題としては、談話展開の方法を明らかにすることによって、他分野へどのようなアプローチができるのかということを考えていく必要があると思われる。

二 目的

本研究では、非母語話者の話す日本語談話にも、日本語母語話者が話す日本語談話同様、談話展開の方法に2つのパターンが認められるのではないかという観点から、3つの目的を持ち、分析・考察を行うこととする。

第1の目的…コミュニケーションの手段とされる言語が非母語である場合、その談話にどのような特徴が現れ、どのように談話が展開されていくのかということを先行研究に基づき明らかにする。

第2の目的…談話展開の方法が、異文化コミュニケーションに影響を与え得る要因について、滞在年数と目標言語の習得レベルという観点から考察する。

第3の目的…談話展開の方法から他分野へのアプローチの方法について考えることとする。

三 方法

分析方法としては、久木田(1990)における方法に基づき、文頭・文中・文末で使用されているキーワードとなる語を抽出、談話の一文一文に対して大まかな内容を検討し、それを分析表として示す。そして、その結果から日本語非母語話者の日本語による談話には、どのような特徴が現れるのか、またどのように談話が展開されていくのかということを明らかにしていくこととする。

四 資料について

談話資料には、「A」ペルー人が話す日本語、「B」コロンビア人が話す日本語及び、「C」スペイン人が話す日本語を筆者自身が録音、文字化したものを用いることとする。

四一 資料「A」について

録音日…2000年2月17日

話者…ペルー人 男性 40歳代 ペルー出身 在日4年

録音実施地…横浜市西区

録音形式…談話形式

話者の住居歴等…2000年現在、横浜市在住(他、東京・埼玉・

栃木・神奈川(除く横浜))

場面設定…知人とくつろいで話すとき

四一 資料「B」について

録音日…2001年10月25日

話者…コロンビア人 男性 30歳代 コロンビア、パンプローナ

出身 在日7年

録音実施地…横浜市泉区

録音形式…談話形式

話者の住居歴等…東京都在住

場面設定…クラスで学生とくつろいで話すとき

四三 資料「C」について

録音日…2001年11月06日

話者…スペイン人 男性 30歳代 スペイン、マドリード出身

在日7年

録音実施地…横浜市西区

録音形式…談話形式

話者の住居歴等…川崎市在住

場面設定…知人とくつろいで話すとき

五 談話展開の分析

資料「A」

01 ワタシノトモダチ アノ ワタシノトモダチ ニホンジン イ
マス イマシタ。

02 アノ コドモノトキ アノ イツモ アソビ アソビダケ。

03 ペロ ワタシ デキナイ ハイル イエ。

04 デモ トモダチ デキル ワタシノ イエ ハイリマス。

05 デモ ワタシ デキナイ ハイリマス。

06 ダカラ クラール アノ トモダチ イツモ サミシイ。

07 「オトーサン オカーサン ゴメンネ ゴメンネ」

08 「アー ワタシ カンケイナイ ワタシ ペルー スンデイマ
ス」

09 ゼーンプ ワタシ モツテル。

10 ダカラ エー イツモ ワタシノトモダチ アノ ヒロシ ナ

マエ イマ チンダ ペロ ヒロシ アノ イツモ ハナシマシ
タ。

11 アノ 「コンド コンド ニホン イキマシヨウ コンド ニ

ホン イキマシヨウ」

12 コドモノトキ イツモ サムライ イツモ カレハ 「ハーツ」

ワタシ 「パンパン」カレハ 「ハーツ」

13 ワカル? コドモノトキ。

14 デモ デキナイ。

01 私の友達、あの、私の友達、日本人います。いました。02あの、

子どもの時、あの、いつも遊び、遊びだけ。03 Pero(しかし)

私できない、入る、家。04でも、友達できる、私の家、入ります。

05でも、私できない、入ります。06だから、clearo(もちろん)

あの、友達いつも寂しい。07「お父さん、お母さん、ごめんね、ご

めんね。」08「あー、私、関係ない、私、ペルー住んでいます。」09全部、

私持つてる。10だから、えー、いつも私の友達、あの、ヒロシ、名前、今、

ちんだ(死んだ)、pero(しかし)ヒロシ、あの、いつも話しました。

11あの、「今度、今度、日本行きましよう、今度、日本行きましよう。」12子どもの時、いつも侍、いつも彼は「ハーツ」、私「パンパン」、彼は「ハーツ」。13分かる？子どもの時。14でも、できない。

分析表「A」

	内 容	文 頭	文 中	文 末
01	話題提示			
02	状況説明			
03	状況説明付加1	ペロ		
04	状況説明付加2	デモ		
05	状況説明付加1の繰り返し	デモ		
06	友人の感情説明	ダカラ		
07	会話再現A			
08	会話再現B(話者)			
09	状況説明			
10	人物(友人)説明	ダカラ	ペロ	
11	会話再現A			
12	状況説明			
13	確認			
14	しめくり	デモ		

分析表「A」から分かるように、文頭において逆接の接続詞とされる「デモ」が3回、逆接の接続詞に相当する「ペロ」が1回の計4回、順接の接続詞とされる「ダカラ」が2回、文中においては逆接の接続詞に相当する「ペロ」が1回用いられている。文末においてはキーワードとして挙げられるものはなく、従って、文頭において逆接の接続詞を効果的に用いながら、前後の文を対照しつつ簡潔に状況を説明していることが伺える。ここから、資料「A」の特徴として「逆

接の接続詞によって前後の内容を対照させつつ簡潔に状況を説明する」という展開方法が見て取れた。

資料「B」

- 01 コナイダネ ボクワ イマ マダワカラナイノワネ キノウ
(ニホンジントハナシテ ソノヒト)
- 02 「ボク アノー ラテンアメリカニイッタヨ」
- 03 「アードコイツチャッタノ？」
- 04 「アルゼンチーン ベレレレレ ベレレレレ」
- 05 センブ(ゼンブ) コロンビアイガイ。
- 06 ネ ナンデ コロン… ソノヒトワ ボクガコロンビアジン
ア シラナイ。
- 07 「エー コロンビア ヤアー コロンビア アブナクテー
マー イケナカッタ」ネ。
- 08 「アーン ソー ソー」
- 09 ソレカラ アツ ネー ネー カレワ モウイツカイ エー
ニシユウカン サンシユウカンマエ アメリカニイッタヨ。
- 10 「アツ ソウ アメリカ アブナクナイ？」
- 11 「ヘーキ」
- 12 「アー ソウ」
- 13 ダツテ イマ イロイロナモンダイガアツテ ジケンガアツテ
テロ(テロ) ジケン デシヨ？アツテ スゴイシンダヒトモ
イッパイイテ イマ アンテラックス デシヨ？
- 14 ソンナコトモ ソレ イッパリアルノニ アブナクナイ
コワクナイ。

- 15 ナンデ? アメリカダカラ?
- 16 ソラ() イメージテキニデシヨ?
- 17 ステレオタイプガアルカラデシヨ?
- 18 アメリカデコロサレタニホンジンワオオイ。
- 19 エルエー ニューヨーク イロイロアルデシヨ。
- 20 ナンデニホンジンワ アメリカニイキタクナイ イワナイノ?
- 21 ナンデイ ナンデ アメリカ アブナイイ ニホンジンハ イ
イ イウニホンジンハイナイノ?
- 22 ナンデイツモ ニューヨークニイキターイ エルエー イキター
イ ナンデ?ン?
- 23 ソレモマタ ステレオタイプデ スゴイイ ニホンジンノアタ
マナカニモ ソンナ ステレオタイプガアル。
- 24 アメリカワスバラシー モンダイガナイ。
- 25 コロンビアワアブナイイ。ネ デシヨ?
- 26 ソーナノヨ。ダカラ ソレワ ナンドモキカレタコトアルデ
シヨ。
- 01 こないだ(この間)ね、ぼくは、今、まだ分からないのはね、昨日()
日本人と話して、その人、02「ぼく、あの、ラテンアメリカに行っ
たよ」03「あー、どこ行っちゃったの?」04「アルゼンチーン、ベレ
レレレ、ベレレレ」05せんぶ(全部)、コロンビア以外。06ね、な
んで、コロン、その人は、ぼくがコロンビア人、あ、知らない。
07「えー、コロンビア、やあー、コロンビア、危なくて、まー、
行けなかった」ね。08「あーん、そう、そう」09それから、あつ、ねー、
ねー、彼は、もう一回、えー、2週間、3週間前、アメリカに行っ

たよ。10「あつ、そう、アメリカ、危なくない?」11「へーき(平気)」
12「あー、そう」13だって、今、いろいろな問題があつて、事件があつ
て、テロ(テロ)事件、でしょ?あつて、すごい死んだ人もいっ
ぱいいて今、アンテラックス、でしょ?14そんな事も、それ、いっ
ぱいあるのに、危なくない、怖くない。15なんで?アメリカ
だから?16そら() イメージ的にでしょ?17ステレオタイプがあ
るからでしょ?18アメリカで殺された日本人は多い。19LA(ロサ
ンジエルス)、ニューヨーク、いろいろあるでしょ?20なんで日本
人は、アメリカに行きたくない、言わないの?21なんでい、なんで、
アメリカ、危ない、日本人は、い、い、言う日本人はいないの?
22なんでいつもニューヨーク行きたーい、LA(ロサンジェルス)
行きたーい、なんで?23それもまた、ステレオタイプで、すごー
い、日本人の頭(の)中にも、そんなステレオタイプがある。24ア
メリカは素晴らしー、問題がなーい。25コロンビアは危ない。ね、
でしょ?26そーなのよ。だから、それは、何度も聞かれたことある
でしょ。

※()…聞き取れなかった語

分析表[B]

	内 容	文 頭	文 中	文 末
01	話題提示		ネ	
02	会話再現A			
03	会話再現B(話者)			
04	会話再現A			
05	状況説明			
06	状況説明	ネ		

07	会話再現A			ネ
08	会話再現B(話者)			
09	状況説明	ソレカラ		ヨ
10	会話再現B(話者)			
11	会話再現A			
12	会話再現B(話者)			
13	理由説明	ダツテ	デシヨ?	デシヨ?
14	状況説明			
15	疑問提示			
16	自己回答付加疑問型1			デシヨ?
17	自己回答付加疑問型2			デシヨ?
18	状況説明			
19	状況説明付加			デシヨ
20	疑問提示			
21	疑問提示付加1			
22	疑問提示付加2			ン?
23	自己回答			
24	23の詳細説明1			
25	23の詳細説明2+確認		ネ	デシヨ?
26	しめくり			デシヨ

分析表「B」から、文頭において並立・累加の接続詞とされる「ソレカラ」が1回、逆接の接続詞とされる「ダツテ」が1回、接続詞以外では軽い主張を意味し、念を押す気持ちを表す「ネ」が1回、文中においては「ネ」が2回、「デシヨ」が1回、文末においては「ネ」「ヨ」「ン」がそれぞれ1回、「デシヨ」が6回用いられていることが分かる。ここから資料「B」の特徴として、文末において確認・念押しのために用いられている「デシヨ」の頻用が挙げられる。これは話し手が聞き手を非常に意識し、確認・念押しを繰り返し用いながら

ら、話者の意見の正当性を納得させていく展開方法といふことができる。従って、資料「B」からは「文末において確認・念押しを頻繁に行いながら自己の主張を聞き手に納得させる」という特徴が明らかになった。

資料「C」

- 01 モーヒトリノセート ニホンジンノヒト ダイガク ニホンニイル。
- 02 ダイガクソツギヨシテカラ マー ゴジユーイクツノカタダスケド スペインノミナミノホー ドンキホーテ アコガレテウマデ リヨコーシタンデスケドネ。
- 03 カレ ユツタタノネ。
- 04 イナカノヒトタチ タトエバ アノー ボクジヨミテルトカネ アノー オジチャンガネ アノー ヒツジオミテル オジーチャンガネ ウマ トーツタラ、「ドコイクノー」トカイッテ。
- 05 「ヤー モー アッチイクンダケド」トカイッテ 「ソコワー モー イインダネー」トカイッテ。
- 06 「ゴハンタベルウー」トカイッテ ヨクシラナイヒトト ゴハンオイツシヨニワケルツツテ
- 07 イツシヨニタベルツツテ。
- 07 ンマー ソレデモ サイキンワ スペインデモ ナクナツテル。
- 08 ボクワ イマモー ソユー センブアメリカブンカニナツテルトコイヤダネ。
- 09 ソンナタンジュンデ ファミコントカ ()サクヒン モツ

テタラ テレビミラレタラ オシアワセツテユー ソーユー
アツサリニンゲンワ ツクリタクナイネ。

10 モウチヨットフカク アジガアルニンゲンガ イイネ。

11 ベツニカレラワ ソーユージンセーコダワツテルケドー モン
クイワナイケドー ソレガ オレワー ジョーシキダツテ ホカ
ノヒトニイツテモ ケンリガナイトオモウ。

12 ヤット ニンゲン ココマデキテクレタカラ ギヤクモドリ
カ。ネ。

13 ニンゲンダツテ モー ナンセンマンニン ナンセンマンネ
ンツテイウカネエ ニクダケコロ ネ タベテ ヤサイワ アマ
リタバナイデ サカナタバテツテ ドウブツデ セイカツシテキ
タツテ ギヤクモドリカヨ。

14 ニンゲンノノーリヨクツテ テレビミルノ ソレダケジャナイ
トオモウ。

15 ン マー テレビダケミテルコツテイッタラ ドヨー ドノク
ライタンゴモツテル?

16 テレビニデテルタンゴシカモツテナイ。

17 ガツコーニイツテモ センセンキョーミガナイカラ トツテモ
モラエナイ。

18 テレビガセンセーニナツテル。

01もう一人の生徒、日本人の人、大学、日本にいる。02大学卒業し
てから、まー、50いくつの方ですけど、スペインの南の方、ドン・
キホーテ、懂れて、馬で旅行したんですけどね。03彼、ゆつてた(言っ
てた)のね。04田舎の人たち、例えば、あのー、牧場してるとかね、

あのー、おじちゃんかね、あのー、ヒツジを見るおじいちゃんか
ね、馬、通ったら、「どこ行くのー」とか言って。05「やー、もー、あつ
ち行くんだけど」とか言って、「そこはー、もー、いいんだねー」と
か言って。06「ご飯、食べるうー」とか言って、よく知らない人と、
ご飯を一緒に分けるって、一緒に食べるって。07んまー、それでも、
最近、スペインでもなくなってる。08ばくは、今もー、そういう
せんぶ(全部)アメリカ文化になってるところ嫌だね。09そんな単
純で、ファミコンとか、() 作品持ってたなら、テレビ見られたら、
お幸せって言う、そういうあつさり人間は、作りたくないね。

10もうちよつと深く、味がある人間がいいね。11別に彼らは、そう
いう人生こだわってるけどー、もんく言わないけどー、それが、お
れは常識だつて、他の人に言っても、権利がないと思う。12やつと、
人間、ここまで来てくれたから、逆戻りか、ね。13人間だつて、も
う、何せん万にん(何千万年)、何せん万年っていうかねえ、肉だけ
ころ、ね、食べて、野菜はあまり食べないで、魚食べてって、動物
で生活してきたつて、逆戻りかよ。

14人間の能力つて、テレビ見るの、それだけじゃないと思う。15ん、
まー、テレビだけ見てる子つて言ったら、どよー、どのくらい単語
持つてる? 16テレビに出てる単語しか持つてない。17学校に行つて
も、せんせん(全然)きょーみ(興味)がないから、取つても、貰えない。
18テレビが先生になつてる。

※() …聞き取れなかった語

分析表「C」

	内 容	文 頭	文 中	文 末
01	話題提示			
02	人物説明＋状況説明		ケド	ケドネ
03	伝聞提示			ネ
04	伝聞説明(会話混入型) 1		ネ ネ／ネ	
05	伝聞説明(会話混入型) 2			
06	伝聞説明(会話混入型) 3			
07	状況説明			
08	所感			ネ
09	所感付加			ネ
10	所感			ネ
11	所感		ケド ケド ケド	オモウ
12	状況説明(所感を交えて) 1		ケド	ネ
13	状況説明(所感を交えて) 2		ネ ネ／ネ	オモウ
14	所感			
15	疑問提示			
16	自己回答			
17	状況説明(所感を交えて)		カラ	
18	しめくり			

分析表「C」から、文頭においてはキーワードとなるものは挙げられず、文中においては「ネ」が4回、「ネー」が1回の計5回、「ケド」が1回、「ケドー」が2回の計3回、「カラ」が2回、文末においては「ネ」が5回、「ケド＋ネ」が1回、「ヨ」が1回、「オモウ」が2回用いられていることが分かる。ここから、「ネ」や「ネー」、さらには「オモウ」などを頻繁に用いて自己確認を行うとともに、聞き手を意識し、

話し手の意見を納得させようと働きかけていることが伺える。また、「ケド」や「ケドー」を文中で用いることによって、話者の意見を一層強調し、意見の正当性を主張している。さらに資料「C」の特徴としては、所感が多く語られているということが挙げられる。ここから資料「C」の談話展開の特徴としては、「話し手が自己の主張を露にして聞き手を納得させる」という展開方法をとっていることが挙げられる。

六 結 果

以上、日本語非母語話者における日本語自然談話を分析・考察した結果、滞在年数7年の2名と4年の1名とは、その談話において異なるパターンをとることが認められた。

滞在年数7年という2名の談話の特徴として共通している点は、文末において頻繁に「確認」を行うということが挙げられる。さらに、この「確認」には、資料「B」のように「デショ」を用いることで直接的に聞き手に働きかけるパターンと、資料「C」のように「ネ」を用い、自己確認をしつつ間接的に聞き手に働きかけるパターンという2つのパターンが見て取れた。

一方、滞在年数4年の1名に関しては、滞在年数7年の2名と比べ、所感が少なく、客観的に談話が展開されていることが明らかにになった。キーワードに関しても、滞在年数7年の2名においては文末においてキーワードとなる語が多く現れているのに対し、滞在年数4年の1名においては主に文頭でのみキーワードとなる語が現れている。さらに、キーワード自体も滞在年数7年の2名は「念押し」

「確認」など、主観的表現を多く用いているのに対し、滞在年数4年の1名は逆接の接続詞を多く用いているという点で相違点が現れた。

このような違いが現れた要因として、滞在年数4年の1名は、文中において所々に母語の語彙「ペロ(pero)」を交えているところや語順、さらには助詞の欠如などから、目標言語の習得時期にあることが伺えるのに対し、滞在年数7年の2名は、話者の主観を自由に表現することができるなど、目標言語をほぼ習得していることが挙げられる。言い換えれば、滞在年数4年の1名は、語彙、文法、表現法などにおいてかなりの制限があるのに対し、滞在年数7年の2名は、自由に自己の意見を伝えることができる点で、談話展開のパターンに違いがたとえ考える。

このように滞在年数及び目標言語の習得レベルに着目した結果、個人差などから多少のバリエーションも見受けられたが、談話展開方法には大きく分けて2つのパターンが見て取れた。これらは、先行研究で認められている2つのパターンに類型化することができるが、先行研究では地域によって談話展開パターンに違いが現れたことを指摘しているのに対し、本研究では滞在年数と目標言語習得レベルによって談話展開パターンに違いが現れたと考えられる。

ここから、談話展開パターンが、異文化コミュニケーションに影響を与え得る要因を考えることとする。

2つのパターンのうち、滞在年数7年の2名の談話展開パターンは、久木田(1990)の指摘した「東京型」に類似しており、久木田が、自己主張で話者のペースになりがちな東京方言を「きつい」と感じるとしているように、滞在年数7年の2名の談話は、文末表

現の「念押し」「確認」の頻用から、聞き手にネガティブな印象を与える可能性があると考ええる。

そこで、提案としては、習得レベルによる差に着目し、目標言語の習得段階にあるうちに、「きつい」と感じさせる要素をひかえるよう心がけることが望まれる。「きつい」と感じさせる要素のひとつとして、具体的には、文末表現を挙げることができる。これは、日本語教育の際には、指導者が談話展開パターンを理解した上で、文末表現など、談話に必要な標識の指導をすることにより、改善できると考える。また、学習者自身が、どのような話し方が好ましいのかということ、常に意識することによっても改善できるのではないかと考える。さらに、異文化コミュニケーションの場においては、話し手及び聞き手の間の相互理解も必要であると考ええる。

異文化コミュニケーションの場では、どちらか一方が、非母語によるコミュニケーションを余儀なくされる。しばしば、文化は相対的であると言われるように、言語も相対的であることを忘れてはならない。言語コミュニケーションを行う場合には、非母語話者は、誤解を避けるために、その国の言語を含む文化的背景を事前に学習することが望ましいと言える。一方、母語話者においても、ただ、母語の意味、スタイル、パターンなどに頼るのではなく、非母語話者が話す談話が自国のスタイルとは異なる可能性があるということ、常に意識する必要があるのではないかと考える。

以上のようなことから、談話展開パターンを明らかにすることは、日本語教育において、また異文化コミュニケーションにおいて効果的であると考える。

七 まとめ

以上の結果、以下のように言うことができる。

第1の目的に対するまとめ…非母語話者の談話の特徴としては、「逆接の接続詞によつて前後の内容を対照させつつ簡潔に状況を説明する」という展開方法と「文末において確認・念押しを頻繁に行いながら自己の主張を聞き手に納得させる」という展開方法及び「話し手が自己の主張を露にして聞き手を納得させる」という展開方法が認められた。

第2の目的に対するまとめ…以上の非母語話者における談話の特徴は、滞在年数及び目標言語の習得レベルによつて、大きく2つに分けることができ、先行研究の2つのパターンに類型化することができた。

滞在年数7年の2名の談話展開パターンは、久木田(1990)の指摘した「東京型」に類似しており、久木田が、自己主張で話者のペースになりがちな東京方言を「きつい」と感じるとしているように、聞き手にネガティブな印象を与える可能性があることが伺えた。

第3の目的に対するまとめ…談話展開の方法から他分野へのアプローチの方法として、日本語教育においては、指導者が談話展開パターンを理解した上で、談話標識の指導をすることが挙げられる。また、異文化コミュニケーションの場においては、話し手及び聞き手の間の相互理解が必要であり、常に文化の相対性というものを念頭に置いたコミュニケーションを心がけることなどを挙げるることができる。

八 おわりに

本研究において、目標言語習得期にある非母語話者の自然談話と目標言語をほぼ習得した非母語話者の自然談話には、その談話展開のパターンに明らかな違いが認められた。従つて、異文化コミュニケーションを考える場合、目標言語習得期には、談話標識を含む日本語の持つ構造の理解に努め、目標言語の習得後には、その言語の持つ文化的背景、つまりコミュニケーションスタイルを考慮した談話展開パターンを意識することが望まれる。また、会話分析同様、談話の展開方法においても言語を含む文化の相対性というものを常に意識し、個々人が効果的なコミュニケーションを行うことができよう心がけていくことが、異文化コミュニケーションにおける誤解を最小限にする鍵となるのではないかと考える。

本研究は、日本語非母語話者による自然談話を分析したものであるが、資料が少ないことや、それぞれの出身国が異なっているという点もあり、問題は少なくない。従つて、より多くの談話を分析し、母語、非母語及び日本語自然談話の対照を通して研究を進めていく必要があると思われる。しかしながら、話し手と聞き手の関係において、知人に協力を依頼したことにより、より自然にかつりラックとした状況で話をして頂けたという点で、資料としては質の高いものであると考える。また、非母語の習得レベルに関しては、文法(助詞等)、母語の出現の有無、意図の伝達等、何点かに着目し、判断の基準とした結果、ある程度、客観的に習得レベルを判断できたと考えるが、今後は話者自身に学習歴を聞くなど、より多角的に分析を進めていくことが望まれる。

付記

本稿は、日本学術会議加盟学会である日本コミュニケーション学会、第33回年次大会で発表したものを加筆・修正したものである。年次大会の際には、多くの先生方に御教示賜った。記して御礼申し上げる。

参考文献

石井敏・岡部一郎・久米昭元(1996)『異文化コミュニケーション』有斐閣

植村勝彦・松本青也・藤井正志(2000)『コミュニケーション学入門』ナカニシヤ出版

久木田恵(1990)「東京方言の談話展開の方法」『国語学』162

齋藤孝滋編(1999)『地域言語調査研究法』おうふう

晋萍(2002)「中国語における日本語学習の談話教材作成の試み」『フェリス女学院大学 日文学院紀要 第九号』フェリス女学院大学学院

須崎由嘉(1999)「東西方言折衝地における談話展開の社会言語学的研究」『日本語学会 第198回大会予稿集』

泉子・K・メイナード(1993)『会話分析』くろしお出版

泉子・K・メイナード(1997)『談話分析の可能性』くろしお出版

園部美由紀(1997)「豊橋方言における談話展開の方法」『名古屋・方言研究会 会報14号』

田中香織(2002)「英語における談話展開の方法——日本語における談話

展開の方法との比較——」『日本言語学会 第124回大会 予稿集』

田中香織(2003a)「談話展開研究に関する方法論の日米対照研究——話展開の対照言語学的研究のために——」『社会言語科学会 第11回研究会 予稿集』

田中香織(2003b)「スペイン・ガリシア地方出身者が話すカステイリヤ語談話展開分析の試み」『フェリス女学院大学 日文学院紀要 第十号』フェリス女学院大学大学院

デボラ・タネン(1992) 田丸美寿々・金子一雄訳 『わかりあえない理由 男と女が傷つけあわなかったための口のきき方10章』講談社

野崎希世江(1996)「江戸語における談話展開の特徴」『名古屋・方言研究会 会報13号』

畑中宏美(1994)「富山県水見方言の談話展開の方法」『北海道方言研究会 会報13号』

会二十周年記念論文集 ことばの世界

一三三朋子(1995)「母国話者と非母国話者との会話における母国話者の意識的配慮の検討」『教育心理学研究』43

一三三朋子(1999)「非母語話者との会話における母語話者の言語面と意識面との特徴及び両者の関連——日本語ボランティア教師の場合——」『教育心理学研究』47

(本学博士後期課程)